

学校番号	4	学校名	沼津聴覚特別支援学校	記載者	庄司 達夫
------	---	-----	------------	-----	-------

本年度の取組 (重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
魅力ある聴覚特別支援学校の教育の推進		教職員が、特別の教科道徳各教科の授業、日常生活の場面において、人権教育や心の教育を意識した指導を行うことができる (教職員アンケート AB100%)	A	A	組織として年間計画や啓発月間を設け、積極的に対応する姿勢はよい。時代背景による問題は多様化するので、対応してもらいたい。
		児童生徒が自分の良いところや友達の良いところを答えられる (児童生徒アンケート AB100%)	B	A	自分の障害を受け止めたうえで自己肯定感を高めていくことは難しい。引き続きサポートを続けてほしい。
		教職員が、子どもの命を守る方法がわかり、適正な判断や行動ができる (教職員アンケート AB100%)	A	A	基本的な安全行動が身に付いてきている。さらに南海トラフなど有事の規模や影響を考慮した訓練を進めていけるとよい。
		幼児児童生徒が命を守る方法がわかり、適切な行動をとることができる (児童生徒アンケート AB100%)	A	A	避難訓練の振り返り (事後学習)を実施しているのはよい。自分で考え、行動することを大事にしてほしい。
		安全な学習環境を整備することで、幼児児童生徒が安心して学習活動を行うことができる (教育活動において不備が元となるケガでの緊急対応 0 件)	A	A	ホワイトボードなどを活用し、ケガの様子の情報提供を速やかに行えるとよい。引き続き、安全かつ安心な環境で学習活動できるようにしてほしい。
		教職員自身が、働きやすいと感じ、気持ちよく仕事を行うことができる。 (教職員アンケート AB100%)	B	A	教職員が気持ちよく働ける環境があればこそ、子供たちによりよいサポートができると思う。業務の負担軽減について話を持って見たらよいのではないかな。
		放課後を有効に活用できる。教職員が、効率よく仕事を行うことができる。 (時間外勤務 月 45 時間 0 人)	A	B	授業の準備や研修などに時間が割かれる中での工夫や IT 化など、時間を有効に活用し、個々の力を発揮できるようにしてもらいたい。
		紙などの消耗品、PC 棟の情報機器の適切な管理、運用がスムーズに行うことができる。 (教職員アンケート 100%)	A	B	ICT は、今後も広がっていく中で、より良い活用の仕方を考えてほしい。また、運用に関するスキルを身に付けていくようにしてほしい。
		ニーズに応える対応を行うことができる。	A	A	普通校に通うことで勉強だけでなく人間関係や保護者の理解な

聴覚障害教育のセンター的役割を積極的に発揮する	(教職員アンケートAB100%)			ど不安や心配事もあると思うので、今まで同様にニーズに応じてもらいたい。
	外部への発信を積極的に行事ができる (教職員アンケートAB100%)	A	B	インクルーシブ教育が進んでいる中で専門性の生かしている取組を発信してほしい。SNSなどを活用し、手軽に見られるような仕組みがあるとよいと思われる。
	相談への対応をスムーズに行うことができる (教職員アンケートAB100%) (保護者アンケートAB100%)	A	A	相談したいことや今後の見通しなど分からないことが多いと思う。必要に応じて様々な関連と連携して相談対応を引き続き行ってほしい。
	学校間での連携を図ったり、本人の実態に即した指導を行ったりすることで通級生が安心して学び人向か合うことができる。 (保護者アンケートAB100%)	A	A	子供の気持ちや不安を感じるものがなくなるよう、学校間で連携の充実を図ってほしい。
継続した教職員の専門性の向上の取組	教職員が、学習会や研修について目標を立て、専門性も向上を図ることができる。 (教職員アンケートAB100%)	A	A	学習会や研修は、参加することも大切だが、その後それを生かし、どのような取り組みをしたのか、また計画していくのかまで必要ではないか。
	自己の向上させたい専門性について目標に掲げ、それに向けて意識的に取り組むことができる (教職員、各自の専門性に関する自己目標達成率100%)	A	A	OJTの取り組みは、お互いの学びにつながると感じた。企業にいる聴覚障害との関わり方を企業や地域に還元してもらえるとありがたい。
	読書指導や日常生活を通して、幼児児童生徒の言語の拡充を図ることができる (教職員アンケートAB100%)	A	B	言葉の習得や言語力の向上など大変なことだと思うが、引き続き生徒の社会自立へ向けて支援してほしい。また、読むことの大切さを教員が働きかけ、つなげていってほしい。
聴覚障害教育の専門性を生かした「つながる学び」による学力向上	教職員が、幼児児童生徒にわかる授業に向け、工夫したり改善したりすることができる。(教職員アンケートAB100%)	A	A	日々、放課後等、会議や研修等で忙しい中だと思うが、子供に分かる授業づくりに向け、今後も継続して取り組んでいってほしい。
	児童生徒が、「授業をとおしてできるようになったことが増えた」と答える。 (児童生徒アンケートAB100%) (保護者アンケートAB100%)	A	B	何を学んだのか、どう学んだのか、子供に分かる授業の工夫を継続して取り組んでいってほしい。
	他者(他学部を含め)の授業を参観し、「より良い言語指導」に基づいたアドバイスをしたり、アドバイスを受け	A	A	「よりよい言語指導」というものを基にしながら、お互いに見合う工夫がされている。授業力の向上に向けて、今後も継続して取り組

様式第5号

	<p>て授業改善したりすることができる。 (教職員アンケート AB100%)</p>			<p>んでいけるとよい。</p>
	<p>幼児児童生徒の実態に即した視覚的支援を活用することができる。 (教職員アンケート AB100%)</p>	A	A	<p>一人ひとりの子供の理解力や障害の程度により授業の工夫が必要であり継続してほしい。電子黒板もっと有効に活用してほしい。</p>
	<p>学年や幼児児童生徒の実態に応じた指導を意識して行うことができる。 (教職員アンケート AB100%)</p>	A	A	<p>年齢に応じて、言葉や生活面での丁寧な指導が行われていると感じる。今後もより充実させてほしい。</p>
	<p>情報の共有を通して、幼児児童生徒の実態がわかり、授業の実践につなげることができる。(教職員アンケート AB100%)</p>	A	B	<p>子供の学びを充実させるために、情報の共有は欠かせない。連携を図り充実を図っていけるとよい。</p>
<p><b>社会自立に向けた地域ぐるみの教育の充実</b></p>	<p>交流や地域施設、人材の活用を行い、幼児児童生徒の学びの機会を設けることができる。(教職員アンケート AB100%) (児童生徒アンケート AB100%)</p>	A	A	<p>地域への投げかけで地域自身も活性化される。地域との交流や外部の人材をどんどん活用し、子供たちの学びを充実させてほしい。</p>
	<p>幼児児童生徒や保護者が、自分(子供)の課題や将来の生活や進路について考えることができる。 (教職員アンケート AB100%) (保護者アンケート AB100%) (児童生徒アンケート AB100%)</p>	A	A	<p>学校公開をより充実させ、学校のことを知ってもらう機会を設けたらどうか。もっと聴覚障害のある大人との関わりを持てる機会があるとよいと思う。</p>